

## 1. 認知症の動向と将来推計 ～2035年には高齢者の4人に1人が認知症～

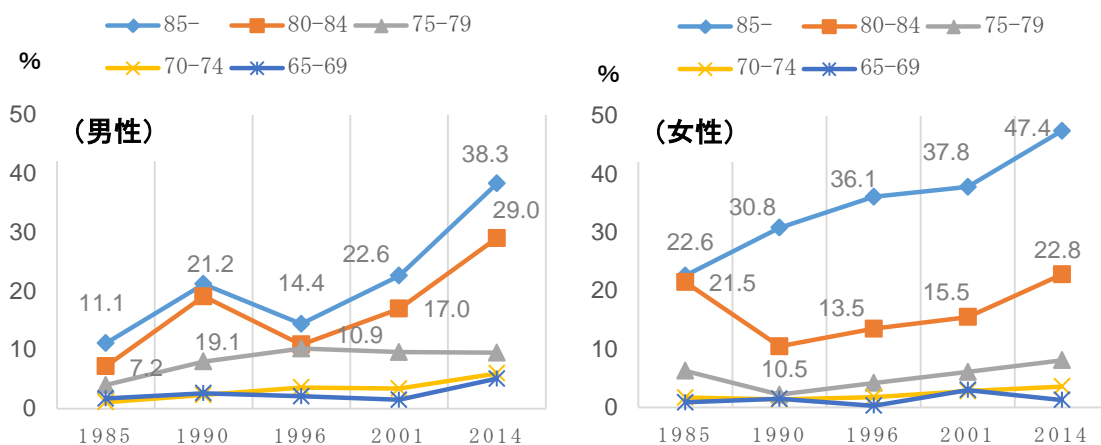
高齢化の進展等を背景に認知症高齢者数が増加しており、今後の保健医療施策を打ち出すためにも、認知症の現状把握と将来の予測が求められています。富山県認知症高齢者実態調査の結果から、①富山県の認知症の現状把握、②認知症高齢者数と有病率の将来予測を行いました。

富山県の認知症有病率は、1985年度の調査開始時より、年々上昇していました（図1）。種類別では、アルツハイマー型認知症が増加傾向、脳血管性認知症が減少傾向にありました（図2）。認知症有病率が2014年度調査以降一定と仮定した場合の将来推計は、2015年に約4.8万人（有病率14.8%）、2025年に約5.7万人（17.3%）、2035年に約6.5万人（20.4%）でした（図3）。線形回帰モデルから算出された将来推計有病率を用いた将来推計では、2015年に約4.8万人（14.6%）、2025年に約6.7万人（20.1%）、2035年に約8.7万人（27.4%）でした（図4）。

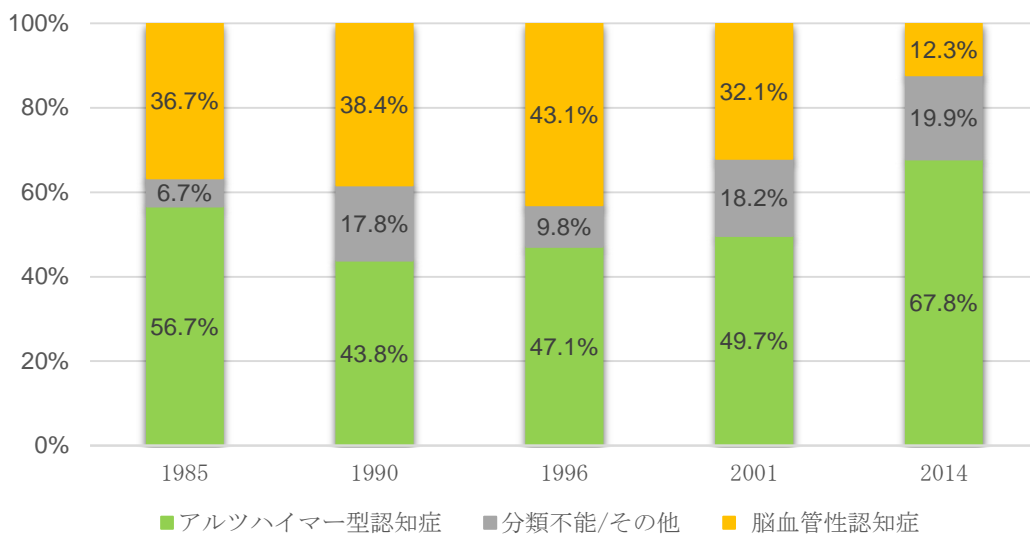
富山県の認知症高齢者は、アルツハイマー型認知症を中心に、今後20年で倍増し、高齢者の4～5人に1人が認知症となる可能性があります。

認知症予防や早期発見・早期対応のための施策等、認知症に対する保健医療体制の充実が必要であると言えます。

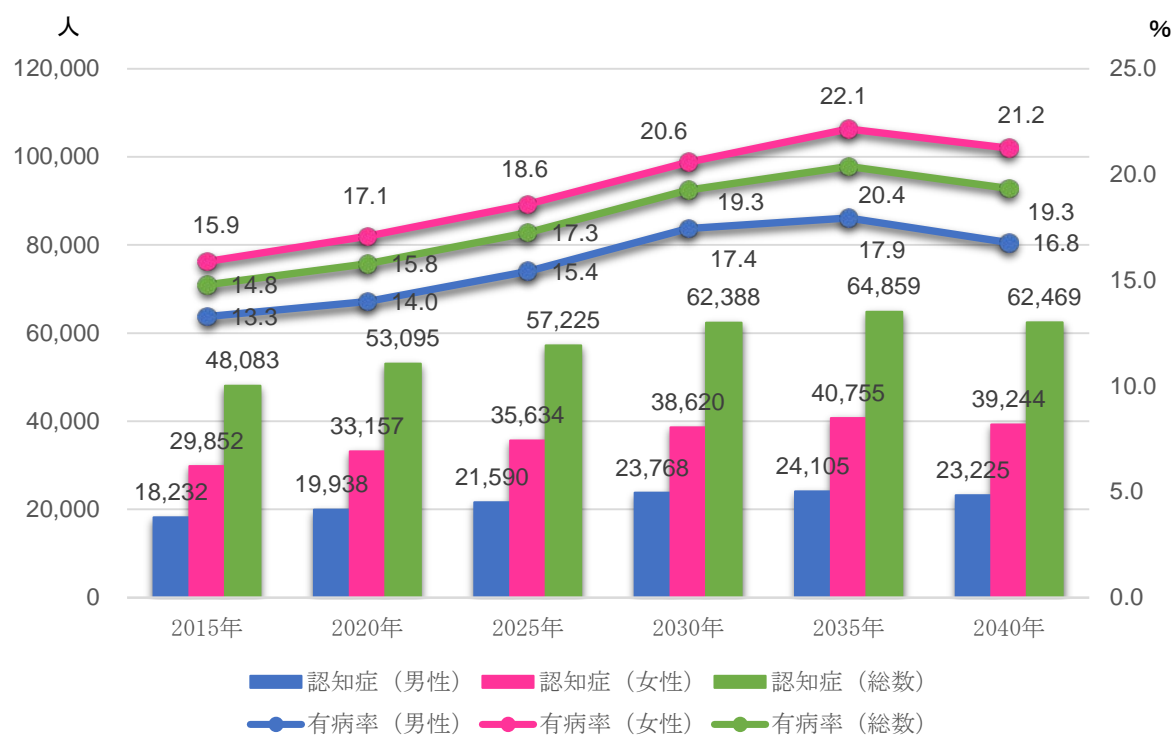
（図1）性別・年齢階級別の認知症有病率の推移



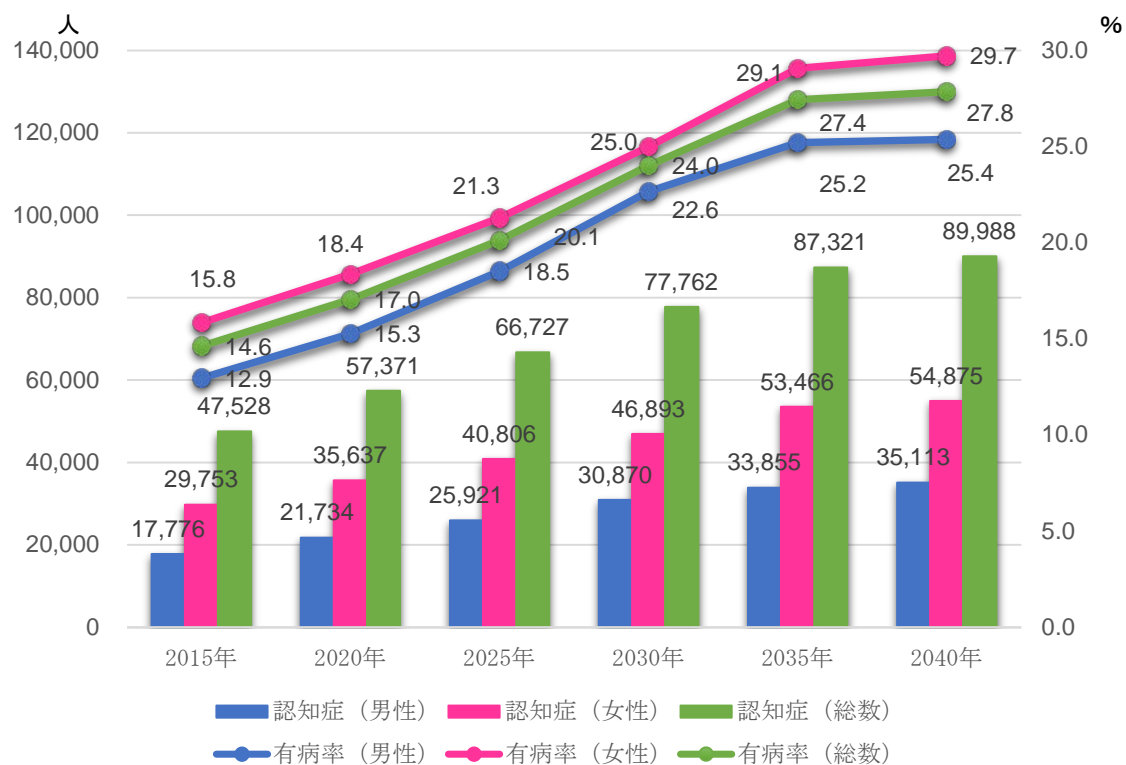
(図2) 認知症全体に占める各種認知症の割合の推移



(図3) 性・年齢階級別認知症有病率が平成2014年以降一定と仮定した場合の将来推計



(図4) 性・年齢階級別の認知症将来推計有病率による将来推計



出典：平成26年度富山県認知症高齢者実態調査追加分析報告書